

名古屋芸術大学グループ 通信

39
April
2017

工場を訪ねて④



染色工房
×
テキスタイル工房

学生にしかできないこと
見たことのない布を作る

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

会社をく経営【デザイン】する
清水夏樹

NUA-Student

人間発達学部
子ども発達学科 4年
式守あやか

News/Topics

ニュース&トピックス

大学からのお知らせ

■ 学校法人名古屋自由学院
平成28年度寄附事業について

音楽学部

- 第44回 卒業演奏会が行われました
- 名古屋西文化小劇場連携事業
室内オペラ公演「魔笛」を上演しました
- 名古屋芸術大学オリジナルミュージカル
「アップルパイは殺しのサイン!？」が
上演されました

人間発達学部

- 人間発達学部主催
「春を呼ぶ芸術フェスティバル」を
開催しました

美術学部・デザイン学部

- 第44回 名古屋芸術大学卒業制作展
- 作品講演会・映像作品上映会・
記念講演会 - が行われました
- 第44回 名古屋芸術大学
卒業制作展記念講演会
箭内道彦氏による記念講演会を
開催しました

- ブライトン大学との学術交流協定
20周年記念式並びに、
2016年度ブライトン大学賞授与式が
行われました

名古屋芸大グループ校特集

- 学校法人名古屋自由学院
滝子幼稚園

コラム NUA

プログラミング教育の必要性
人間発達学部准教授 加藤智也

Master Artist

マスターアーティスト

音楽は終わらない
音楽学部 教授 高木直喜

Information

インフォメーション

- 出版
- アート&デザインセンター
2017年度展覧会スケジュール
(予定)
- 2017年度オープンキャンパス日程



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学/大学院: 音楽研究科 学部学科: 芸術学部 芸術学科 ■名古屋芸術大学保育専門学校
美術研究科 音楽領域 デザイン領域 ■名古屋芸術大学附属クリエイト幼稚園
デザイン研究科 美術領域 芸術教養領域 ■滝子幼稚園 ■たきこ幼児園
人間発達学研究科 人間発達学部 子ども発達学科 ■名古屋音楽学校 (名古屋芸術大学 附属)



工場を訪ねて④



染色工房 × テキスタイル工房

学生にしかできないこと
見たことのない布を作る



本学には、木、金属、ガラスなど、扱う素材に応じた“工房”
があります。今回の特集では、「染色工房」と「テキスタイル
工房」をご紹介します。さらに、この工房を活用し、東海
地区の産業と連携して世に新たな製品を送り出そうという
テキスタイルデザインコースの取り組みをご紹介します。



テキスタイル工房

テキスタイルデザインコース専用の工房。20台以上の機（はた）織り機、デジタル孔版製版機、ヒートプレス機、ニードルパンチ機を設置しています。



染色工房
技術職員
小久保綾乃さん

デザイン領域
テキスタイル
デザインコース
扇千花教授

テキスタイル
デザインコース
助手
古川理恵さん

西キャンパス、X棟1階奥に、染色工房とテキスタイル工房の2つが並んであります。染色工房は共通工房であり、本学学生であれば誰でも利用することができます。テキスタイル工房は、テキスタイルデザインコース専用の工房となります。

実際には、染色とテキスタイルのカテゴリをきれいに切り分けられない部分があり、それぞれの範囲を超えてしまうことがあります。技術員は、テキスタイルデザインコースの卒業生であり、染色にも織りにも通じていて、総合的にサポートすることができます。

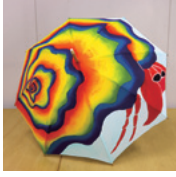
染色工房

染色工房では、糸、布などの繊維に色を付けるための道具、染料、助剤などの薬品が揃えられています。木綿、麻、羊毛、絹、ナイロン、レーヨンと繊維素材に応じて異なった染料が必要になり、技術員と相談しながら利用します。



ろう染め

染めない部分に筆でワックスを塗り(防染)、染色する方法。防染、染色を繰り返し、色の層を作ること多彩な作品を作ることができます。グラデーションが作りやすく、絵画的な表現ができます。



遠藤実奈
「Rainbow house」



糸染め(先染め)

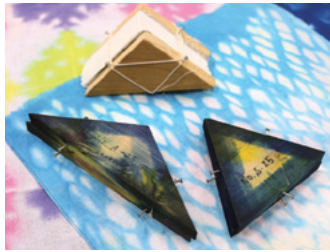
糸の状態から染めます。



板締め絞り染め

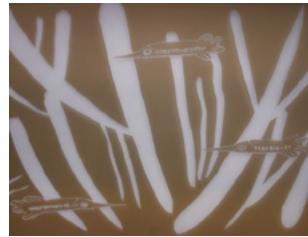
板締め絞り染め

絞りの技法の一種です。折りたたんだ布をいろいろな形の板ではさむことで物理的に防染し、模様を生み出します。たたみ方でさまざまな柄を作り出すことができます。糸で縫い締める絞り染めと共に、インド、アフリカなど世界中の各地で利用されているプリミティブな技法です。



シルクスクリーン

絵画におけるシルクスクリーンと同じ、孔版を使って染色します。水性の染料や顔料を使用するため、荒いメッシュを使います。版で柄をリピートすることが特徴です。

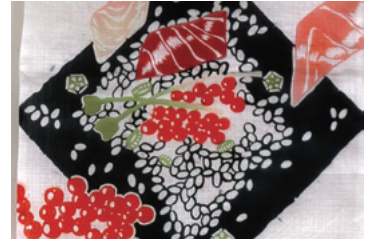


シルクスクリーンの版



型染めの型

染め



古川夕夏「手巻き寿司パーティー」

型染め

下絵を型紙に写し、ナイフで彫り抜いた型紙を布の上に置いて染める技法です。型の抜けた部分に米のペーストを塗り、塗っていない部分が染まります。米を使うため、稲作のある日本と中国にしかない技法です。



酒井里奈「恵風」

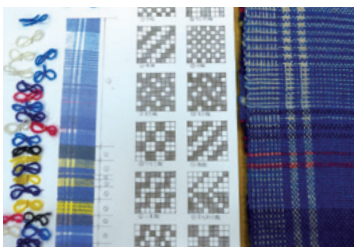
織り

組織織り

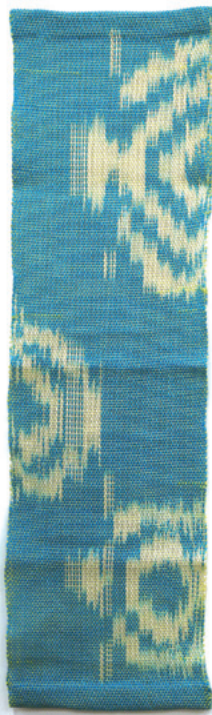
平織り、綾織り、朱子織りをはじめとした基本の織り組織と、色糸を使って模様を織ります。

拵織り

経糸と緯糸を部分的に括って防染し、あらかじめ染め分けた糸を織ることで模様を表します。



さまざまな組織織りを試したサンプル。糸の交差具合を表す織組織図と合わせて見ます。組織織りは、基本の織りをベースに、変形させたり複合的に使ったりすることでバリエーションを作り出すことができます。



林里紗
(左)拵織り(右)組織織り



綴織り

平織りの一種ですが、緯糸を詰めていくことで模様を織ります。絵画的な表現が可能です。



石川栄彩「絢爛」



林里紗「ふわふわもこもこ」



扇 千花 | デザイン領域
教授

—テキスタイルデザインコースでは、どんなことをするのですか？

本学のデザイン領域では、1年生のすべての学生が、共通カリキュラムのファンデーションを受講し、デザインの基礎を学びます。ですから、テキスタイルデザインコースを選択するのは2年生からになります。

2年生では工房を使って、テキスタイルの基礎となるハンドメイドの染めや織りを学びます。また、植物から紙を漉いたり、羊の毛を刈ってフェルトを作ったりします。そのような、植物繊維、動物繊維を平面や立体に構成するペーパーメイキング、フェルトメイキングを通して、繊維素材の性質を理解します。

3年生では、有松産地や尾州産地、名古屋帽子という地域の産業と連携して、テキスタイル産業について実践的に学びます。近郊の工場を見学し、その特徴を理解した上でデザインして、実際に職人とコラボしながら製品開発を行います。

4年生では、これまでの授業で体験、習得した中から、自分でテキスタイルを企画して、卒業制作に取り組むことになります。

—産学連携が数多くあります。どんなことをするのですか？

本学の学生の80%は、東海地区の出身です。一方で東海地域には、有松鳴海絞産地や尾州産地などの繊維産業がありますが、現在は少し停滞気味といった状況です。そこでデザインを学んだ学生たちが、自分たちの地域の産業を活性化させることをコースの目標にしようと考えました。そうして、始めたのが有松産地との連携でした。毎年6月に行われる「有松絞りまつり」で学生自身がデザインし、染めた手ぬぐいを販売します。2009年からこうした授業を始めて、最初の卒業生たちが「まり木綿」名義で有松でデビューしました。それと並行して、帽子産業との連携も始めました。名古屋帽子協同組合との連携は毎年9月に行われる「尾張名古屋の職人展」にて、帽子ファッションショーを行っています。ただ、こちらの連携は商品化まで結びつけるのに試行錯誤をしました。産業と関わるといことは、作品を作るだけでは駄目で、経済活動として成り立たないと意味がありません。有松の場合は、学

生のデザインを商品化することが、わりと早く軌道に乗りましたが、帽子は時間が掛かりました。形になったのは2013年、「浴衣に似合う帽子」をテーマに、「SOU・SOU」ディレクターの若林剛之さんが選んだ学生のデザインを、名古屋の帽子工場で生産し商品化してからです。今までに4点商品化され、ベストセラーになったものもあります。

—そして尾州なんですか

ずっと尾州と連携をしたいと考えていましたが、なかなか良いご縁がなく、12年掛かってやっと2016年から尾州との連携が始まりました。(有)カナーレの足立聖さんと知り合い、シオンヘル織機を使って学生にしかできない見たことのない布を作ろうということで始めました。シオンヘル織機は90年前の織機で、現在主流の織機とくらべると1/5程度のスピードのため、効率は悪いのですが、手織りに近い製品ができます。太い糸でも巻くことができ、クラフト感のある柔らかな風合いの布を作ることができます。中量生産という、大量生産と一品ものの中間のようなクオリティと価格を想定しています。手作り感のあるクラフト的なこだわりは残しつつ、コストをある程度抑え、ちょっと頑張れば買えるくらいの値段で、買う人も納得がいくような、そんな製品です。足立さんは、後継者とシオンヘル織機がなくなってしまうことを危惧していて、工場を一つ借り切ってシオンヘル織機を若い人たちが自由に使える場ができないだろうかと考えていました。そのような考えが私たちと



羊の毛刈り



【浴衣に似合う帽子】
「擬宝珠(ぎぼし)」
デザイン：
オ川清香さん
テープ状のものを渦巻きに縫って作るブレード帽子で、普通なら鍔の付いた日よけ帽にしますが、学生らしい新しい発想でベレー帽に。



尾州との連携。シオンヘル織機での生産



工場見学



「ねね」
デザイン：
福地里沙さん
花嫁衣装の角隠しをイメージ。女性だけでなく男性も使え、横向きや前後逆にして被るなど、いろいろな被り方ができます。

一致して、連携が始まりました。

—サンプルを作って、工場でオリジナルの生地を作りました。学生の作った布が市場に耐えるものなのでしょうか？

学生のときに浮かぶアイデアが、社会人になると浮かばなくなることがよくあります。新鮮なアイデア、プロが思いもつかないような柔軟な発想は、経済性や市場を計算していないからこそ出て来るのです。尾州との連携は今年1年目で、足立さんもいろいろと苦労されたようですが、自分では考えなかったデザインが沢山出てきたところが良かったとのこと意見をいただいています。また、特別客員教授の宮浦晋哉さんが主催するセコリ荘で受注展示会を行いました。インテリア方面から

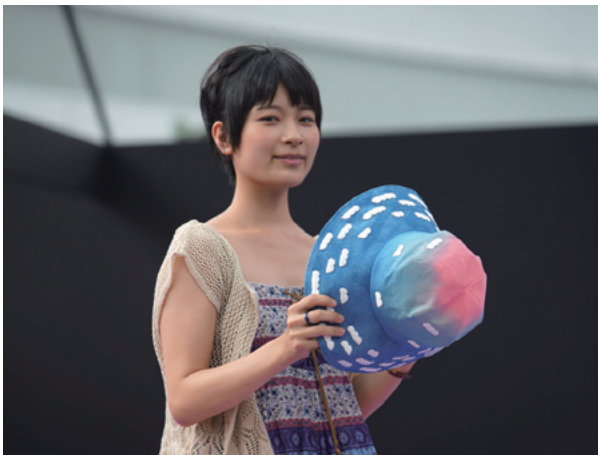


面白いという評価をいただきました。他にも有名なアパレルブランドからも引き合いがあるようで、こちらも採用されないかと期待しています。

—学生たちのアイデアで、面白い布を提供することに専念するわけですね。

学生のアイデアをどう上手く社会に提案するのか、ということだと思います。始めは、学生が最終製品であるファッションやインテリアを想定し、提案するのがいいと考えていましたが、そのうちに、全部を学生が考えるのではなく、プロが布を見た上でどんなアイテムに適しているのか考えてもらうほうがいいと分かってきました。もともとテキスタイルデザインは、布という素材を作るファーストデザインで、製品はセカンドデザイナーが行います。そこがインダストリアルデザインやグラフィックデザインなどの他のデザインとは大きく違うところです。来年度はこういった部分も、もう少し整理できるかなと考えています。

テキスタイルの分野では、人間が昔から



尾張名古屋の職人展に帽子を出品

2016年9月17日、オアシス21にて、「第33回 尾張名古屋の職人展」に作品を出品、それぞれが自分でデザインした作品を身に付け、ファッションショーを行いました。名古屋帽子協同組合、中部日本ネーム刺繍業組合、本学の3者による産学連携プロジェクトです。学生がデザインした帽子を工場で生産し、作品を職人展で発表、一般の観客が審査しました。



特別客員教授 宮浦晋哉氏、カナーレ 足立聖氏によるデザインチェック

2016年10月11日、西キャンパスX棟1階テキスタイル工房にて、宮浦晋哉氏によるデザインチェックを行いました。シヨンヘル織機を見学しイメージを膨らませて生地をデザインし、そのサンプルを手織りで制作、実際に産地で生産する前に、デザインを検討する機会となりました。一人ひとりデザインソースになった写真などと夏休み中に手織り機で試作したサンプル、さらに後期の授業で作成したサンプルを手に、プレゼンテーションを行いました。デザインソースの説明から始まり、色の調整や質感の変化など試行錯誤を繰り返したプロセス、デザインのポイントとなる部分について細かに説明。宮浦氏は、具体的な生地の使い方を想定した上で市場性があるかを判断し、デザインの可能性を、また、足立氏は、織機で織った場合に不都合はないか、織り方を変えることでより目的に合うものができるのではないかといった技術的な面を確認しました。



ずっと培ってきた技術や素材、アイデア、知恵が継承されています。学生を見ていてとてもいいなと感じるのは、そうしたものがなくなっていくことを惜む気持ちを強く持っていることです。昔から伝えられてきたものを大切にしたい。自分の時代になくなってしまふのは非常にもったいないし、それに対して何か力になりたいという気持ちを持っています。そうした気持ちにこたえて、若い人がテキスタイルデザインの世界で活躍できるように、できるだけ多くの道筋を作りたいと考えています。

- 来年度の取り組みは？

パリ在住のファッション実業家、齋藤統さんに客員教授をお願いしています。有松、尾州、



綿織物の産地である静岡の遠州で、卒業生が活躍しています。この卒業生たちに産地での仕事をプレゼンテーションしてもらい、その後、卒業生と齋藤さんとのパネルディスカッションを計画しています。学生は先輩が働いているテキスタイル産地を身近に感じ、産地の問題を一緒に考えて、さらに齋藤さん

の話から、世界的な視野で日本のテキスタイル産地の行く先を考える機会にしたいと思っています。

現在の学生たちは、私が大学に赴任してきた12年前とくらべて、経済の所為もあってか視野が狭いように感じます。自分の知っていることで世界が閉じていて、検索した情報だけで世界を知っているような気になっている。クオリティの高い布を見て触って、その素晴らしさに驚くような、リアルに体験して感じる事が大切だと思います。芸術大学へ来ているのだから、専門の世界のことをより多く知って、自分の選択の幅を広げてもらいたいですね。良いもの、良い人に触れることのできる環境をできる限り整えていきたいと思っています。



14th JAPAN YARN FAIR&総合展 「THE 尾州」で作品を発表

2017年2月22～24日、一宮市総合体育館で開催された14th JAPAN YARN FAIR&総合展「THE 尾州」において「翔工房作品発表会」が行われ、本学からは2名の学生が作品を発表しました。「翔工房」は、学生に対してアパレル製品を開発するための企画力を早い段階から醸成する目的で、一宮地場産業ファッションデザインセンターが創設した組織です。これまでも本学の卒業生がその門を叩き、尾州産地で活躍するようになりました。

また、今回の14th JAPAN YARN FAIR&総合展「THE 尾州」では、NUA textile labで学生たちが作成した布も展示され、多くのテキスタイル業界の方々にご覧いただきました。



宮浦晋哉 × 齋藤統 対談 「パリから見た日本のテキスタイルのポテンシャル」

2016年12月8日、西キャンパスX棟1階和室にて、特別客員教授である宮浦晋哉氏とAECC (Asian European Consulting Company) 社長の齋藤統氏による対談「パリから見た日本のテキスタイルのポテンシャル」を開催。対談を行う前に、Xギャラリーに展示された学生たちがデザインした布を見ていただきました。学生一人ひとりコンセプトを齋藤氏に説明しました。「15の作品には15の個性があり、それぞれの頑張りがよく現れています」と講評をいただきました。対談では、日本のテキスタイルが欧州で高く評価されていること、日本と欧州のアパレル産業の違い、また、欧州への中国資本の参入で大きく業界全体が揺れている現状などのお話がありました。「私にできることは、頑張っている若い人をサポートすること。オールジャパンの組織作りを宮浦氏と若い世代に託したい」との言葉がありました。



Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

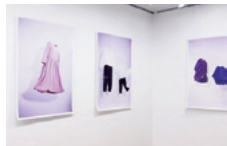
NUA-ism



従業員の約6割が女性。昔ながらの広告制作会社とは一線を画す心地よい労働環境



寝そべることもできる休憩スペース。お昼には、お弁当を広げる人も



社員向けギャラリーとして用意されている「C1 Gallery」社員が業務を離れて自由に制作した作品を展示。ぬいぐるみ・写真・ファッション・生け花等、展示内容は十人十色。モノ創りの本質を一人一人が見直す機会とし、一般公開もしている。



デザイン 会社を<経営>する

デザイン学部を卒業、デザイナーとしてキャリアを積みつつ、現在は広告デザイン会社の取締役を務めるといふ本学卒業生でも異色のキャリアを持つ。しかも、創業メンバーとして会社の創業に関わったというから、さぞやバイタリティーあふれる人物ではと想像してしまうが、ソフトな語り口が印象的な非常に穏やかな人だった。デザイナーとして積んできたキャリア、新会社になってからの経営者としてのキャリア、自分の中で折り合いがいたのは最近のことだという。「クリエイターとしてのキャリアと、2009年以降のマネジメントという会社作りにおけるキャリアあって、今になって思えば通用する部分もあるんですけど、当時は全くそれまでのキャリアからは切り離してという状態で、相当、悩みましたね。長い間、アートディレクターをやっている、今の名刺を渡すと昔の知り合いは『清水おまえデザインやってないんだ。現場に出てないんだ』といわれることが多いんです。僕は、心の中で会社をデザインしているんだと思っているんです」

学生にはわかりにくい話かもしれないが、どんな職業であっても企業で働いていれば、現場の第一線でやっているところから、いわゆる中間管理職としての業務へと変化していく時期がある。このとき、特に実際に手を動かして仕事をしてきた者ほど強く管理の仕事に戸惑い、ときに会社から離れてしまう程のことになる。でも、そのことは視野が狭くなっているだけではないかと考えさせる。「気が付いたのは外からの指摘です。会社の代表から『清水君のやっている仕事ってデザインだよ。その視点でまとめていくと課題が解決できるって、俺は思う』といわれたことがあるんです。一旦、ズバツと切ってしまったと思ったキャリアが、実は生かされていた。心の支えになりました」

クリエイトという作業は、文字通り0から1を作る仕事であり、ゴールのないところに向かうものである。一方で、商業デザインを顧みれば、ゴールを

ダイニングメッセージふせん



www.taki-c1.co.jp/taki/by_c1



たきC1は広告の枠を越えた、コミュニケーションの開発も企画している。「生きる」を楽しくするをコンセプトに、2016年からスタートしたオリジナルプロダクト「BY_C1」は、新人からベテランまで全社員対象コンペで選ばれた商品。ショッピングサイト#Cartや、クリエイターズマーケットでも販売している。

仮定して、予算、納期、チャンスとリスクを勘案し、そこから逆算して進める仕事ともいえる。「経営も一緒に、チャンスとかリスクを予測して、そこをちゃんと穴埋めして備えておく、そういう作業だったりします。後になって考えてみれば、特にデザインという仕事は、経営とつながっているところがあるのではないかと自分では解釈しています」同時に、自分の視野の狭さにも気付かされたという。「どこまで行ってもクリエイターは井の中の蛙というか、そんなことを実感したのが会社を立ち上げる2009年です。知らなかったことばかりでした。大学もBORDERLESSと進めているようですが、音楽と美術とデザインをBORDERLESSにしてもそれだけで終わらないはず。その外側のほうがすごく広くて、そこをBORDERLESSにしていけないと、思いますよ」 外の世界を知ることが、クリエイティブに大きく影響するという。



政府が進める「働き方改革」に、最もそぐわない業界の一つが広告業界ではないかと思う。ほかにも、マスメディアの不透明性やアナログからデジタルへの変遷など、広告業界には多くの解決すべき課題がある。「いろいろな経営課題がありますが、

Vol.79 NUA-OB 清水夏樹

(しみず なつき)
株式会社 たきC1
取締役 統括部長



1971年 愛知県生まれ
1994年 美術学部デザイン科卒業
たき工房名古屋事業所入社
2009年 たきC1 創業メンバーとして参画

愛知県広告協会賞、中日新聞広告賞、ニューヨークADCファイナリスト

現職務に就く前は、デザイナー、アートディレクター、クリエイティブディレクターとして手腕を発揮。たきC1立ち上げ後は、マネジメント業としてより広い視野でのキャリアを積む。たき工房名古屋事業所時代から、百貨店・航空会社・自動車メーカー・放送業界・大型公園施設・コスメ美容業界・観光地開発など、数多くの広告を手がける。



新卒が手掛ける社内報「C1つうしん」。アナログ感を大切にするのはたきC1の文化。同氏は「中華そば」のコンテンツを連載

長時間労働に関しては、もしかすると1番大事な課題ではないかと認識しています。就活情報サイトなどでも『広告業界は仕事が深夜まで及ぶことがある』なんて説明されています。世間からも厳しい目で見られるようになってきていて、仕事のやり方を変えていく必要があると思っています。実際に会社でいろいろなことをやってみていますが、正直、結果が出るのはこれからです。でも、今、働いている社員達は、僕が若かった頃よりも、皆賢いです。猪突猛進でやってはいるけど、世の中が変化していることを感じ取っています。広告の在り方も変わってきていて、これから先のことはやっぱり不透明です。しっかり見えているものがあるならそこへ皆で向かうんだけど、選んでいけるほど先見の明がないので、様々なことにチャレンジしています。今年のスローガンは『やってみよう』にしました。裏を返せば、何をやっていいのかわからないから『やってみよう』なんですけどね。 模索しながら進む。



これから広告業界で働いてみたいという学生に対して望むことを何うと、「意思を伝えられること」と応えてくれた。「意思を効果的に、社会、同僚、会社に発信できる人。企業がやりたいことを人に伝えるのが僕らの仕事なので当然なんですけど、自分のやりたいことを伝えられることですね。誤解しないで欲しいのは、饒舌であることは違います。お客さんのいうことを素直に吸収して、咀嚼して、そのまま効果的に伝えられることです。どこの会社もコミュニケーションのある人といいますが、それよりもっと踏み込んで自分の意思を伝えられることですね。自分の意思を、世の中にできるだけいい形で送り出すこと、そこが大事じゃないかと思いません」

広告の仕事は「夢見がちな商売」と説明してくれた。過日のように夢見がちだけでは成り立たなくなった今に、誠実に向き合っている姿が印象に残った。



Vol.80
NUA-Student
式守あやか
(しきもり あやか)
人間発達学部
子ども発達学科 4年

人間発達学部主催の「春を呼ぶ芸術フェスティバル」で見事なピアノを披露。ピアノはいつから？

中学校のときに少し習って高校に入ってやめて、大学になってからまた始めました。大学1年生のときは結構、頑張ってるってんですよ。将来必要になるじゃないですか。「春を呼ぶ芸術フェスティバル」では、本当に緊張してミスばかりでした。

教員免許はどうするの？ 幼保、小学校も？

フルコースです。最初は、保育士と幼稚園だけにしたかったのですが、先生に勧められて。おどろいていうと変ですけど、小学校も取っておいた方がいいといわれて選択しました。幼保と小学校の連携が出てきて、なるほどなと思いました。たくさん授業がありますが、取っついてよかったなと思います。

小学校の実習は4年になってからだけ？

私は、小学校の実習は行かないんです。幼稚園か小学校か選んでどちらかの実習に行けば、免許が取れるようになったみたいで私は幼稚園に実習に行きました。一応、小学校も小学校体験実習というのがあって、それにしました。そのときは様々な学年を見ましたが、1年生から6年生まで幅があって少し難しそうだなと感じました。

先生になりたいと思ったのはいつ頃から？

中学校の頃、漠然と数学とか家庭科の先生がいいなと思ってたんです。身近に先生を見ていて、教えるのが楽しそうな印象ですね。高校に入って、いろいろと迷って、家庭科系に行こうか、心理学に行こうか、経済学部に行こうか、保育園に行こうか、とても迷いました。いろんな大学を調べてみたくて、本当に最後になって将来、子どもに係わる仕事に就きたいと思いました。心理学だと大学院まで行けば免許が取れるらしいんですけど、将来のことを考えると保育園かなと。だから、最初から保育士になりたいというよりも、子どものことを知りたくて、発達とか、学問的なことを勉強したいという思いが強かったです。



「2台のピアノのためのソナタ第1楽章」式守あやか/佐竹美早紀(右) 2017年2月11日、春を呼ぶ芸術フェスティバル



名大オーケストラでバイオリンを担当。「初めはついていけなくて駄目だったんですけど、皆、優しく見捨てなくてなんとかやっています(笑)」



名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園でのゼミ発表



実習で作ったペーパーサート(割り箸と画用紙で作る紙人形)たち



ゼミの食事会

3年生のときに「子どもと音楽」のゼミに所属。ピアノ演奏会や幼稚園での発表、小学校の音楽教室などに取り組んでいる



お昼にはお手製のお弁当

勉強して、それから職業として保育士を選んだという感じののかな？

初めての実習で保育園に行ったんですけど、何をすればいいのかわからなくて、どうしようかと思ったんです。でも一応、学校で学んできたことをいろいろ取り入れながらやってみて、将来どうしようと思ったのが1回目でした。

次に、幼稚園実習に行って、私の通っていた幼稚園なんですけど、そこでずいぶん成長させてもらったなと思います。学んだことを実践に生かせることがすごいなと思って、沢山の経験をさせていただきました。それが3年生のときです。

幼稚園のときに見てもらった先生とかいらっしやっただけ？

私の担任の先生だった方がパートでいらして、その先生が会いに来て下さって感動しました。「すごく印象深い子だったよ」といわれました。たぶん先生が初任だった頃に見てもらったので、印象深かったんだと思います。

そのときの実習は、自分でやりたいことをいろいろ挑戦してできたかなと思っています。

手遊びをやったり、ペーパーサートを作りました。子どもたちと一緒に作り、喜んでくれるのでそれがうれしかったです。作ることも勉強になったし、楽しいし、作ったものは一生残るものなので、将来に生かせるかなと思います。

3免(保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の免許)だと授業、忙しいでしょ？

正直、勉強は、高校のときと比べると、授業数もそれほど多くはないじゃないですか。テストも、自分で考えて書くというのがありますけど、勉強でそれほど苦労はなかったです。実習が大変でしたね。初めは、実習って大変だなと思ったんですけど、今は楽しく感じています。あつ、でも、記録を書くのは大変でしたね。書きたいことがたくさんありすぎて、時間がなくて大変でした。私が実習で行ったところは、大学で配られた用紙を使用しましたが、書くことがあるならどんどん紙を付け足して書いていいよというふうだったので、下書きしたりして書いていると、すごく時間がかかって。実習をやって、1日の流れの中でどんなことがあったかを書くんで

すけど、1日1枚以上で実習期間の12日分と、それプラス指導案。それを書いて、訂正して、書いて、訂正して……。1日の流れを意識していないと、書けないです。

書いていて、子どもの目線に立って書くっていうのがすごく大事だと教えられました。子どもに問いかけをしながら会話する、これが子ども目線なのかなと思いました。「促す」「させる」という言葉は書かないようにというのもありました。それは、そうだなあと思いましたね。

保育士志望、やっぱり小さい子がかわいい？

保育園に勤められれば良いと思っています。年齢によっていろいろな楽しみがあるかなと思います。去年の保育実習で、0歳児を担当させていただいたんですけど、すごくかわいかったです。ずっとお世話って感じですよ。首の据わっていない子がいて、初めはちょっと怖かったですけど、保育士さんは上手くだっこして、かわいかったです。4歳ぐらいになると、嘘をついたり、試し行動っていうのをしたりするので、難しいと感じることはありました。でも、それも面白いなと。こういうこと考えるんだとか、新しい発見がありました。

サークルとか、何かやってる？

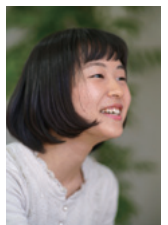
じつは、インカレで名大オーケストラに入ってバイオリンをやっています。

えっ、バイオリンもできるの！

小さい頃にやっていた、中学、高校とあまり触ってなかったんですけど、大学に入ってまたやり始めました。ピアノと一緒に。高校時代は、吹奏楽部でコントラバスをやってたんです。オーケストラに入って、違う大学で、いろんな大学の人が集まって、またいろんなことが経験できてよかったです。

音楽、すごいじゃない。ご両親は音楽に進ませたかったんじゃない？

じつは、母が名芸の洋画のOGで、小さい頃は絵を習いなさいといってたんですけど、絵の具のにおいが嫌で駄目になったらしくて。それで音楽に(笑)。名芸は、ピアノがたくさんあって、たっぷり練習できるのがいいですよ。



大学からのお知らせ
学校法人名古屋自由学院
平成28年度寄附事業について

平成28年度、法人事務局に寄附事業担当者が配置されました。

平成25年度から名古屋芸大生夢サポート募金（以下：「夢サポート募金」とする）の募集が開始され、平成28年度の寄附金内容は下表のとおり6項目に区分して活用しました。

1 寄附金の使途別状況（平成29年3月31日現在）

（単位：円）

寄附金の使途	平成28年度寄附金額	前年積立金額	使用金額	使用方法等
1 学生に対する奨学金	140,000	0	140,000	人間発達学部 学生1名 保護者の家計急変により学費支弁を継続することが極めて困難になった学生の修学を支援する「緊急奨学金」の一部として使用させていただきました
2 音楽活動支援事業	55,000	260,000	0	平成28年度は支援申請がありませんでした。よって、平成29年度以降に各使途別の事業への使用を検討の上、活用させていただく予定です
3 製作活動支援事業	740,000	231,048	0	
4 子ども教育活動支援事業	60,000	221,000	0	
5 キャリア支援事業	10,000	370,000	0	
6 その他、学生支援の充実を図る事業	535,000	0	535,000	平成28年度は支援申請がありませんでした。よって、平成29年度以降に各使途別の事業への使用を検討の上、活用させていただく予定です
合計	1,540,000	1,082,048	675,000	

2 募金対象別状況

（単位：円）

募金対象	寄附金額
1 卒業生	65,000
2 在学生の保護者	30,000
3 教職員・役員（退職者含む）	910,000
4 その他賛同する個人・法人・団体	535,000
合計	1,540,000

3 寄附者について

平成28年度にご寄附をいただいた方々は10名、3法人です。

○寄附者氏名の公表

〈個人〉（※50音順 敬称略）浅野正昭、川村大介、神戸峰男、清水清隆、島本昌典、竹本義明、平野春吉、山口加代子
 〈法人〉一般社団法人あおぞら、ナガサキ工業株式会社、富士工管株式会社

4 高額寄附者への感謝状・記念品贈呈

ナガサキ工業株式会社

平成29年1月26日(木)、高額寄附者に対する特別顕彰として、本学との産学協同プロジェクトでお世話になっているナガサキ工業株式会社に感謝状の贈呈式が執り行われました。（ホームページNews & Topics 2017年1月31日付に掲載）

5 その他

特別寄附金として北名古屋市が「生涯学習公開講座負担金」として46万円、クリエイ幼稚園から「クリエイ愛園会 親子で吹奏楽を楽しもう」の協賛金として13万円及び印刷用インク代として1万円が寄附されました。

6 「名古屋芸術大学貯蓄年金ポイントカード」(以下：「ポイントカード」とする。)

「ポイントカード」は、地域等の連携によるサイモンズ加盟店に協力を依頼し、企業との連携を図ります。現在、内海海水浴場内の施設を本学の「ポイントカード」で使用できる準備を進めています。引き続き、名古屋芸術大学の有料公演をはじめ他団体のチケット料金も本学のカードにポイントが付与できるよう努めています。平成27年度に発行しました「ポイントカード」は、平成29年3月末で94名の教職員・在学生・後援会・同窓会・

一般からの支援者から申込がありカードを発行しました。本学ポイントカード運営会社「サイモンズ」のホームページのニュースリリース&トピックス報道関係記事は次のURLをご覧ください。

http://www.symons.co.jp/newslist_publicity.php?dm=25&pg=2

7 平成29年度は、「学院寄附金」、「夢サポート募金」、「名古屋芸術大学創立50周年記念募金」、「ポイントカード」を4柱に、案内の作成、募金活動の開始及び学院全体で寄附金増額に取り組むことを目標とします。

8 寄附及び募金の詳細は寄附事業担当（日高）までご連絡ください。電話：0568-24-0311（内線275）

Fax：0568-24-0314

info:kifu@nua.ac.jp

「夢サポート募金」の詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.nua.ac.jp/yumesupport/>



※Webで検索 **夢サポート募金**

News & ニュース&トピックス
Topics

音楽学部

第44回 卒業演奏会が行われました

2017年3月9日(木)、三井住友海上しらかわホール（名古屋市中区）で本学音楽学部の第44回卒業演奏会が行われました。

卒業演奏会は、出演者にとって

は大学4年間に学んだ成果発表の場であるとともに、幼少期からの集大成の場ともいえます。音楽学部にとっては、各コースの教育成果を公表する特別な演奏会です。本年度は、卒業試験で優秀な成績を修めた演奏学科の学生16名が出演し、独奏や独唱のかたちで舞台に臨みました。

プログラムは、3部構成で、序盤の第1部は電子オルガン（2名）からスタートして、ソプラノ、フルート、ソプラノ、サクソフォーンと続き、6名が出演しました。第2部では、マリimba、ピアノ、ソプラノ、ピアノ、ソプラノ独唱



1 電子オルガン演奏
2 ソプラノ
3 サクソフォーン演奏
4 マリimba演奏
5 バスクラリネット演奏

で5名が出演。第3部は、バスクラリネットからピアノ、テノール、トランペット、ピアノと続き、5名が出演しました。

指導教員をはじめ、家族や友人らが客席から見守る中、日頃の練

習の成果を十分に発揮するすばらしい演奏を披露してくれました。一人ひとりが、独奏や独唱を終えるごとに、会場から惜しめない拍手が送られていました。

音楽学部

名古屋西文化小劇場連携事業 室内オペラ公演「魔笛」を上演しました

2017年2月24、25、26日の3日間、名古屋西文化小劇場にて、本学と名古屋西文化小劇場との初めての連携事業、オペラ公演「魔笛」を上演しました。名古屋文化振興事業団ではオペラ公演を「普段、敷居が高く思われがちなオペラを

身近の小劇場で」というコンセプトで開催を続けており、今年度から本学が連携することになりました。上演された「魔笛」は子供から楽しめる冒険活劇で、身近なオペラということに合ったものです。さらに「イママデミタコトナイ」というキャッチコピーにふさわしく、舞台背後のスクリーンいっばいに映像を上映。オーケストラの音楽とソリスト達の歌唱、そしてそこに映像を加えた斬新な演出が

試みられています。今回のオペラ公演は、24日(金)が学部学生公演、25日(土)が教員・卒業生公演、26日(日)が大学院生・学部学生選抜公演となり、観客はくらべて見ることが楽しく、また、出演する学生にとっては、教員と一線活躍する卒業生の音楽的技術を身近に見られる非常に良い機会となりました。

25日教員・卒業生公演での配役は、ザラストロ パクター（名芸男子MGD!）、タミーノ 中井

亮一（教員）、夜の女王 つじ村ふみ恵、パミーナ 久野絵里、パパゲーノ 澤脇達晴（教員）、パパゲーノ 成田七香。モノスタス役の加藤市之丞サンタマリア（名芸男子MGD!）氏は体調不良のため、急遽、学部学生でも出演の平野友洋さんが代役を務めました。スタッフは、総監督・演出がパパゲーノ役でもある澤脇達晴、指揮高谷光信、映像監修 飯嶋慶太郎、演奏 名古屋芸術大学オーケスト

ラ、という顔ぶれになりました。序曲が始まると、スクリーンには宇宙の映像が映し出され、本来の舞台エジプトから時代も場所もエジプトとは異なる宇宙の別世界に設定されていることが伝わります。日本の古代や映画スター・ウォーズを思わせる衣装のキャストが登場すると、演出のユニークさがさらに際立ちました。導入から、ライトセーバーの立ち回りがあり、物語の世界にあつという間に引き込まれ、スクリーンに大蛇が映し出されファンタジーの世界が始まりました。タミーノと3人の侍女の歌唱が始まると、演劇的な面白さだけではないことを観客

はすぐに感じ取ったようで、じっと集中しています。すると、会場からパパゲーノが登場、再び演劇的な要素にぐっと引き込まれ、コミカルな狂言回しの役割と「私は鳥刺し」の歌唱に心を掴まれました。第1幕では、観客達は音楽的な要素と演劇としての要素、行き来しながら翻弄されるように揺さぶられ、舞台を楽しみました。タミーノの「なんと美しい絵姿」には観客はうっとり、第1幕の夜の女王の aria では「ブラボー！」の歓声がいくつも飛び、大きな拍手がわき起こりました。休憩を挟んで、第2幕。荘厳さが印象的だったザラストロと合唱、



- 1 タミーノがライトセーバーで立ち回り。ファンタジーの世界が始まります
- 2 コミカルなパパゲーノを澤脇達晴教授が熱演。観客の心を掴みます
- 3 夜の女王登場。1曲目の aria
- 4 パミーナを誘惑しようとするモノスタス。平野友洋さんが3日間とも出演

パミーナを誘惑するように歌うモノスタスと、じっくりと音楽を聴かせる構成です。そして、夜の女王の aria 「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」では再び大きな拍手がわき起こりました。そして、パパゲーノとパパゲーナの

「パパパの二重唱」、フィナーレの合唱となり、拍手はいつまでも鳴り止みません。観客をすっかりオペラを堪能したようでした。終演後、キャスト達はロビーに並び、観客をお見送り。大盛況のうちに終了となりました。

音楽学部

名古屋芸術大学 オリジナルミュージカル 「アップルパイは殺しのサイン!？」 が上演されました

2017年3月2日(木)、名古屋市青少年文化センターアートピアホールで、音楽学部が主催するミュージカル「アップルパイは殺しのサイン!？」が上演されました。今回の公演は、2010年3月に上演されて以来の再演で、海辺の高

級ホテルで起こった遺産相続に絡む殺人事件を、名探偵ホームズが宿泊客たちとのやりとりの中で解決するというストーリーです。この不思議な物語の脚本・演出を手がけたのは、本学ミュージカルコースの森泉博行教授です。森泉氏はブロードウェイ作品の演出、シェイクスピア作品のミュージカル化など、多くの創作ミュージカルの作・演出を担当。更には、東宝、松竹、ジャニーズなどのステージを手がけています。



このミュージカルでは、作曲、振付、演奏のすべてを、本学の教員や卒業生、学生たちが担当しています。ミュージカルコース4年生の卒業公演でもあるこのステージを、最高の舞台にしようと、出演キャストをはじめ、舞台スタッフ、演奏を務めた竹内雅一教授率

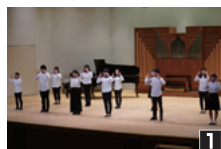
いるバンドメンバーの面々も全力で臨みました。カーテンコールでは、ミュージカルコース4年生がステージに立ち、名古屋芸大生としての最後の歌とダンスを披露しました。会場を埋め尽くした観客からは、惜しめない拍手が送られていました。

人間発達学部

人間発達学部主催 「春を呼ぶ芸術フェスティバル」 を開催しました

2017年2月11日(土)、東キャンパス3号館ホールで、人間発達学部主催による恒例の「春を呼ぶ芸術フェスティバル」を開催しました。このフェスティバルは、人間発達学部を卒業する4年生と退任される先生方を送り、4月から入学する新入生を歓迎するとともに、地域の皆さまや子どもたち楽しんでいただくことを目的として、例年、この時期に行われています。演出は学生実行委員によるもので、前半は、先生方の歌と演奏や、

学生たちが研鑽してきた成果の発表、後半は、ダンス部や和太鼓部などによるパフォーマンスです。プログラムは「みんなで歌いましょう」から始まり、「世界に一つだけの花」など3曲を合唱。続いて、水谷映美先生の独唱で「さびしいカシの木」、「なにかがほら」、「ある晴れた日に」の3曲を、星野英五学部長のピアノでブラームス「ピアノソナタ第3番第5楽章フィナーレ」が演奏されました。続いて、学生によるピアノとフルートのアンサンブル、独唱、連弾などが行われました。第1部の最後は、音楽指導法を履修する学生たちが星野先生の指揮で「ふるさと」、「花は咲く」の



- 1 みんなで歌いましょう 「世界に一つだけの花」[世界中の子どもたちが「エビカニクス」]
- 2 水谷映美先生の独唱「さびしいカシの木」[なにかがほら][ある晴れた日に]
- 3 音楽指導法(合唱)「ふるさと」[花は咲く]
- 4 リズム体操部 「僕らは探検隊」

2曲を合唱しました。歌詞カードが観客にも配られており、会場全体で歌い、演奏を楽しみました。後半は、リズム体操部、ダンス部、和太鼓部の演奏、演技が行われました。会場全体が一緒になって身体を動かしたり、迫力ある演奏、演技を熱心に見つめたりと、

大いに楽しんでいる様子でした。閉会の前に、今年度で退官する古川美枝子先生への花束贈呈、最後に実行委員長からの感謝の言葉があり、閉会となりました。学生、教員らによる熱演に、会場からは惜しめない拍手が送られていました。

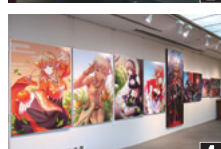
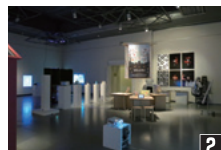
美術学部

デザイン学部

第44回 名古屋芸術大学 卒業制作展 -作品講評会・映像作品上映会・ 記念講演会-が行われました

第44回目を迎えた名古屋芸術大学卒業制作展は、2月21日(火)～26日(日)まで、愛知芸術文化センター(8F美術館ギャラリー、12F

アートスペースG・H)、名古屋市市民ギャラリー矢田、本学西キャンパスの3会場で開催されました。初日の21日には愛知県美術館8Fのギャラリーホールでオープニングセレモニーが開催されました。セレモニーでは、竹本義明学長がオープニングの挨拶を行い、続いて、美術・デザインの両学部を代表して櫃田珠実デザイン学部



- 1 第44回卒業制作展 オープニング テープカットの様子
- 2 愛知県美術館ギャラリー会場
- 3 作品講評会の様子
- 4 愛知芸術文化センター会場
- 5 名古屋市市民ギャラリー矢田会場

長の挨拶がありました。この後、学部を代表して美術学部洋画2コースの西原彩香さんとデザイン学部メディアデザインコースの高橋明也君が卒業制作の作品のギャラリートークを行いました。そして、須田真弘美術学部長を含めた

出席者5名によるテープカットが行われ卒展がスタートしました。期間中各会場では、美術学部・デザイン学部のコースごとに、本学担当教員及びゲストの作家による作品の講評会が実施され、卒業作品をプレゼンテーションした学

生に対して、様々な批評やアドバイスが送られました。また期間中、美術館ギャラリーのホールでは、展示されている全コースの映像作品上映会が実施され、実写映画、スライドショー、コマーシャル、アニメーションの4分野で、上映

時間は110分、一日4回ずつ上映されました。卒業制作展とその関連イベントには、本学関係者はもちろん、一般の来場者を含めて大勢の方々を訪れ、学生たちの思いを込めた作品を鑑賞していました。

美術学部 **デザイン学部**
**第44回 名古屋芸術大学
卒業制作展記念講演会
箭内道彦氏による
記念講演会を開催しました**

2017年2月21日(火)~2月26日(日)に開催した卒業制作展を記念して、最終日の26日(日)に、愛知芸術文化センター12階 アートスペースAにて、卒業制作展記念講演会を開催しました。講演に、クリエイティブディレクター、東京藝術大学美術学部デザイン科准教授の箭内道彦氏を招き「新人と旧人」という演題でお話いただきました。「新人と旧人」とは、新しく社会人になる「新人」と、社会人2年目以降の人すべてを「旧人」として、新人の役目を説明しました。

新人の役目は「古い人たちに教わるだけでなく、旧人を刺激することにある。今年の新人はひと味違うなと思われることが社会との出会いの大きなコツ」と卒業生を鼓舞する言葉をくれました。「社会に出ると、初日で勝負が決まると思うんです。新人は、借りてきた猫のよう。でもじつは迎える社会の側はすごいやつが来たらどうしようと怖がっています。だから、ぶちかました方がいい!」と話します。その上で、美術大学で学んできたことは、非常に意義深いことであるといいます。社会に合わせるだけではなく、自分の視点を持って考えること、学んできたことを生かすことの意義を唱えました。ここで、うれしいサプライズが



- 1「初日で勝負が決まる。だから、ぶちかました方がいい!」
- 2うれしいサプライズ。会場から杉戸洋氏登場
- 3質疑応答。「自分の力不足を感じています。どんなことをしていけばいいですか?」箭内氏「あなた、何かやってくれそうな顔立ちしてる(笑)。たくさん失敗すればいい!」
- 4会場には本学4年生のほか、申し込みで一般から入場も。他大学の学生と思われる来場者も多く見られました

ありました。一人で話すのは慣れていないと話す箭内氏は、会場にいる画家の杉戸洋氏を壇上に上げるよう求め、ここから二人の対談という形式になります。杉戸氏は、東京藝大准教授(元本学デザイン学科教授)を務めており、今回の箭内氏の講演のコーディネイトに尽力いただいた存在です。二人のクリエイターによるお話は、穏や

かな雰囲気の中にも、ドキリとさせられる言葉がたくさん含まれる、ユニークなものになりました。最後に、「大学を卒業し社会で武者修行をして、人と知り合い、失敗した経験で得たものを、自分の育った場所に恩返しして欲しい。そうすることで、もっと社会は良くなっていくはず」とまとめました。

美術学部 **デザイン学部**
**ブライトン大学との学術交流協定
20周年記念式典並びに、
2016年度ブライトン大学賞
授与式が行われました**



2017年2月24日(金)、名古屋東急ホテルにおいて、本学とブライトン大学との学術交流協定20周年を記念した式典並びに、2016年度ブライトン大学賞授与式が行われました。記念式典では、最初に、本学の

水内智英国際交流センター長が開

式の辞を、そして、竹本義明学長が挨拶を行いました。その後は来賓の祝辞で、元学長で初代の国際交流センター長の大島俊三様から学術交流協定締結の経緯や20周年を迎えた今日の隆盛について、お祝いのお言葉を頂きました。この後、20周年記念事業の展開と今後の展望について、須田真弘美術学部長から、2つの記念事業(対話によるドローイング制作と地域の魅力を伝えるメディアとしてのゲストハウス)の目的と実績について、画像を使って説明がありました。また、美術学部の西村正幸教授からは、版画公開制作とワークショップ(ブライトン大学×名古屋芸術大学×モンクット王工科大学ラートクラバン校)

『版の方法論』について、同様に画像を用いて詳しい解説が行われました。式典最後には、今回来日されたブライトン大学のアン・ボディンアート&ヒューマニティカレッジ学部長からご挨拶を頂きました。「両大学のパートナーシップ20周年の中で、今回5回目の参加となり、美術学科長のアマング・ブライトと共に参加させていただいたことを嬉しく思います。そして、この20年にわたる、類まれな友好関係を祝い、その間に実施された豊かな学術交流を通じて、名古屋とブライトンの学生達が共同制作を行ったり、友人関係を築き、言葉や国境を越え、創造的なアイデアを分かち合う、といった、様々な機会を得られたこ

とをともに喜びあう、この場にいらることを、とても誇りに思っています。昨今、世界的な混乱をみる情勢の中で、国際的なパートナーシップの構築は、これまでに増して重要になってきています。両校のパートナーシップも、これまでの過去20年間を祝うだけではなく、また目的意識を新たにして、これから始まろうとする10年間を寿ぐものにしていかねばならないと考えています」などのお話がありました。続いて、ブライトン大学賞の授与式に移りました。美術学科長のアマング・ブライト氏から受賞者と作品の講評が発表され、表彰状が授与されました。本年度もグランプリ1名、優秀賞1名、奨励賞2名、佳作6名の計10名の学生が受賞し

Column NUA No.36

プログラミング教育の必要性

人間発達学部准教授 加藤智也

世間は今、空前のプログラミング教育ブームです。特に子ども向けプログラミング教室が活況で、習い事ランキングでも上位に顔を出すようになってきました。プログラミングというと、つい最近まではごく一部の人がだけが行う特殊な行為というイメージだったと思いますが、一体何が起きているのでしょうか?

プログラミング教育熱が急速に高まっている大きな

理由の一つに2020年度からの「小学校での必修化」があります。ITが国境を越え社会のあらゆる領域で重要性を増すなか、プログラミングを将来の仕事にしないまでもプログラミングを通じて社会を取り巻く各種の装置やサービスの仕組みを知っておくことは、世の中の仕組みを知り新たな仕組みを創造していくうえで役立つとともに、グローバル人材として重要な能力になると考えられています。また、第四次産業革命が進行するなか、2045年には、AI(人工知能)が人類の能力を超える地点(シンギュラリティ)に到達し、「今後10年から20年程度で、アメリカの雇用者の半数近くの仕事が自動化され

る可能性が高い」、「2011年に小学校に入学した子供たちの65%は大学卒業後、今は存在していない職業に就く」などといわれています。そうした状況下において、人間とコンピュータが共生していくには、コンピュータの得手・不得手を理解し、人間にしかできないことを創出していく必要があります。これから生きていく子どもたちにとって、プログラミングの的なもの考え方(プログラミング的思考)ができるかどうかで見えてくる世界は大きく変わるはずであり、そうした発想で見られるようになれば、変容していく社会の在り方にも対応できることでしょう。私たちを取り巻く現代の問題は、

ました。グランプリ受賞者は、デザイン学部スペースデザインコースの村松希紗さんで、作名は「家を仕立てる～服から始める2人暮らし～」でした。「未来にはどのように暮らすか、また空間に住まうのか、について、非常にクリエイティブ、かつ上手に提案をし、想像を掻き立ててくれる、現代的な彼女の作品」との講評でした。

この後は、本日出席の来賓の紹介がありました。ブライトン大学との学術交流協定20周年に尽力された名誉教授や歴代の後援会会長、国際交流センターの教職員が紹介されました。そして、名古屋

2016年度ブライトン大学賞受賞作品一覧

	学部/コース	氏名	作品名	担当教員		学部/コース	氏名	作品名	担当教員
優秀賞	デザイン/スペースデザイン	村松希紗	家を仕立てる～服から始める2人暮らし	平田哲生 駒井貞治		美術/洋画2	藤原 葵	Rebirth	吉本作次
	美術/彫刻	中山亜季	ぶらまいO	岩井義尚		デザイン/スペースデザイン	矢田春菜	tsugito te	平田哲生 駒井貞治
奨励賞	デザイン/メタル&ジュエリーデザイン	菅野 慎	コスモス	久野利博		デザイン/セラミックデザイン	権田明子	ゆらりん ころりん	和田義行
	デザイン/メディアデザイン	大久保志帆	Mask Doll	竹内 創		デザイン/ビジュアルデザイン	村田亮波	Living pattern	則武輝彦
佳作	美術/日本画	三井里花	永劫回歸 (生は繰り返される)	荒木弘訓		デザイン/ビジュアルデザイン	長谷川匠	「味がある」ということ。	則武輝彦

屋芸術大学後援会会長の山田 貢様から祝辞と乾杯の挨拶を頂いて、祝賀会に入りました。祝賀会では、このブライトン大学賞第一回グラ

ンプリ受賞者の美術学部日本画卒業生水野幹子さんによる当時の微笑ましいお話を拝聴し、和やかな温かい祝賀会となりました。

しばらくの歓談後、水内智英国際交流センター長が閉式の辞で締め、関係者全員で記念撮影をして、式典と授与式を終りました。

名古屋芸大グループ校特集

学校法人名古屋自由学院 滝子幼稚園

「ようこそ！滝子幼稚園へ」 ～未就園児親子教室～

28年度の未就園児親子教室「ちゅうりっぷ組」の参加登録者は、1、2歳の2教室で計295名でした。その内75名がこの春入園されました。各クラス年間13回開催し、参加したい時にいつからでも自由に参加できるフリースタイルで行っています。28年度は皆勤賞、精勤賞が2教室で60名いらっしゃり、それ以外にも大勢の方が何度も来園され、毎回大盛況、滝子幼稚園のファンが増えてきています。

未就園児親子教室の開催目的は、次の2つです。

1. 滝子幼稚園の教育目標を理解してもらうこと

滝子幼稚園では「逞しく生きる力の基礎」を培うため、「みずから動き出す子ども」の育成を目標に掲げています。保育者側から教え与えるだけの教育ではなく、常に「何かな？どうしてかな？どうすればいいのかな？」などと園児に疑問符を投げかけ、子どもがみずから考え、気づき、工夫しながら様々な事を創造していけるように援助しています。そのため特に

年長組では、どんな事も自分たちで話し合って取り組んでいく過程を大切にしています。様々な考えや価値観に触れながら「自分の考えや意志を持つことの大切さ」と「友だちと協働する楽しさや素晴らしさ」を学び、みずから動き出して欲しいのです。

さらに意欲を引き出す工夫として「異年齢交流」を大切にしています。下級生は、上級生の姿に憧れ、「やってみよう！」と意欲が湧きます。また上級生も下級生にキラキラの目で見つめられる事で、年長者としての自覚が芽生え、自己有用感が育ちます。

未就園児親子教室もこのような園の教育方針を肌で感じ体感して頂くことと園児と触れ合う機会を大切にしています。例えば、夏祭りでは年長組がお店屋さんを出展し、未就園児をもてなします。年長児は、その準備の過程で上述のようにクラスでごっこ遊びを楽しみながら何度も話し合いを持ち主体的に活動を進めて当日に臨みます。その意欲的な姿勢を感じて欲しいのです。また、リズム遊びでは、年少組がお手本となり得意げにやり方を見せて教えてくれます。ちゅうりっぷさんは目をキラキラさせて年少児を見つめ、真似して楽しんでいます。さらにクリスマス

ス会では年長組が合奏や歌を披露し、最後のお別れ会では、年長に進級目前の年中組が入園歓迎のプレゼントを考えて準備しています。このような交流を毎年繰り返す事で、相互に刺激し合い「見て学び」、「やって学び」、「教えて学ぶ」意欲的な子どもが育っていきます。

2. 地域の子育て支援の充実を図ること

毎回、お便り「滝子家庭版」を配付しています。保育者が子どもの成長を願い工夫して取り組む保育実践の様子と、様々な出来事やその過程を通してみずから成長していく子どもの姿を伝えています。発達や幼児期の子どもにとって大切なことを具体的な事例を通して伝えることで子育てのヒントを提

供し、子育てを支援しています。

最後に、未就園児教室に毎回大勢の参加者を迎え入れることが出来るのは、準備から片付けまで園のスタッフだけでは対応しきれないことを滝子幼稚園愛園会が進んでサポートして下さるお陰です。「私達もちゅうりっぷ組でしたから・・・」と温かい言葉を頂きます。皆さんの温かい気持ちが巡って繋がって子育て支援の輪が広がり、ちゅうりっぷ組を楽しく開催出来る事に感謝しています。みずから動き出す主体的な子どもの育成を目指して！！

「ようこそ！滝子幼稚園へ」ちゅうりっぷ組の詳細はホームページでご確認ください。皆さんのご参加、歓迎します！



環境、経済、食料、人口など、どれを取り上げても多く、要因が複雑に絡み合っています。そこで、複雑な問題に立ち向かうための方策を自分で考え解決する能力として、プログラミング的思考が注目されているのです。

プログラミングは、問題解決のための手順をまとめることにほかなりません。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解して、より単純な要素の組み合わせとして表現することから始まります。そして、各要素が互いにどのように関係しているのか、どのような手順で動作させるのかなど、問題解決方法自体を記述したものがプログラムとなるのです。意図したとおりに動かなければ、

さまざまな角度から課題を抽出し、解決方法を探っていきます。こうした活動を通して子どもの問題解決能力や論理的思考力を育むことこそ、プログラミング教育の本質といえるでしょう。特に小学校での教育では、文章の読み書きや計算といった、子どものうちに身につけるべき基礎的かつ普遍的な能力として位置付けられます。

そこで、重要となるのがプログラミング教育を実施する先生です。しかし、新しい科目ができるわけではなく、どの学年や教科でどのくらいの時間を使って何を教えるかの指定もありません。実際にどう取り入れていくかは、現場の裁量に任されることとなります。理科、算数、

音楽、図画工作などの各教科、または総合的な学習の時間の一部で、これまでと同じ先生が教えることになるでしょう。ですが、プログラミング必修化は先生が習ったことのないものが入ってくるという大きな変化です。それに現場が耐えられるでしょうか？無理にプログラミングを教えるれば、子どもたちがプログラミングを嫌いになった、もしくはコンピューターに対して苦手意識を持った、という状況を生みかねません。そうなることのないよう、小学校教員を養成する大学はプログラミングの価値や魅力を理解し教育できる人材を育てていく必要があります。



2~3歳の頃。居合道など武士道に生きていたとても厳しい父親の影響かも。この後、刀がフルートに替わるとは!!



1975年、本学卒業式後の謝恩会にて



マスター to アーティスト 【第36回】

＜ 音楽は
終わらない ＞



大学を卒業した
ころ

高木直喜 音楽学部 教授

(たかぎ なおき)

1952年 愛知県生まれ
1975年 名古屋芸術大学音楽学部器楽科卒業
1985年~2010年 セントラル愛知交響楽団に在籍
(旧ナゴヤシティ管弦楽団)

2013年の春、それまでの非常勤から教授に就任されたとき、本誌の記事のため同じ研究室でお話を伺った。尊敬するマルセル・モイーズの写真も変わらない。そして、お話の愉快さと思いの熱さも変わってはいなかった。開口一番、大学の改革について切り出した。「ある大学の先生が、名芸大の音楽学部はなくなるんだということをtwitterかFacebookか何かで書き込んだらしくて、酷い話だと思っんですよ。確かに、外から見ると名前が変わってしまうからなんだろうが、はっきりと実技関係のところは専門性を追求することに何も変わらない!と打ち出して欲しいですよ」とはいえ、ご本人にBORDERLESSのことにについて伺うと「僕が専任になったのが61歳のときですし、それまでオーケストラ以外の組織の経験ありません。大学は、多くのことを改革してきたわけですし、最近になってやっと色々なことがわかってきたところ、全然付いていけないですよ。必死ですよ(笑)」と笑わせた。もっとも、わからないといいつつ演奏系以外のコースも高く評価している。「卒業生として正直なところ、音楽総合やエンターテインメントコース、どんな意味があるのかと以前は考えていました。

ところが、実際の学生たちと面談していると、将来を見据えた発想で出発しているということ強く感じるようになりました。2017年度からは、もっと幅広く選択できるということじゃないですか。一所懸命きちんとやる学生にとっては魅力的ですよ。これは凄いことです」

1971年入学、本学2期生の大先輩である。当時、本学は美術学部と音楽学部の2学部だけが設置されていた。大学に入ったときには、1年上に1期の先輩がいるだけで、1年生と2年生の2学年しかまだ学生はいなかった。校舎は、現在の5号館一つだけだったという。「学校のまわりは田んぼや畑ばかり。4号館のところに建物があって、学生は当時、明治村と呼んでいた。道路を挟んだ向かいに管楽器の練習場があって、それは馬小屋と呼んでいた(笑)。そんな状態でした。学生の人数が少なくてオーケストラを編成するにも、人も楽器も足りていない。副科の学生を集めてなんとかやっていましたが、名大、南山、名工大、そちらのオーケストラの方がいい音を出していました。何もなかった、苦労しました。馬小屋のところで練習している

と、幼稚園の子どもたちがグラウンドで行進の練習をしている。先生たちが、手拍子でリズムを取っているの、学生達でマーチを吹いてあげたりしていました。学生は少なかったけど、いい雰囲気は今も当時と同じです。ただし、和気あいあいとしたものはいいけど、本来大学でやることは別のことでしょという思いはずっと胸にありました」思うように音楽に打ち込むことのできない歯がゆさと同時に、現在の本学に通じる自由さ、そして伸び伸びとした様子が伝わる。

音楽の道を選ぶことを両親は理解してくれたという。中国へ出征した父親や、戦争経験者である親の世代からは、好きな音楽を続けていける時代の到来は何よりも代え難いものだったに違いない。音楽を続けることの代わりとっては何だが、教職課程を履修することを父親から命ぜられた。「教員試験の一次試験に何とか受かり、当時は教育委員会からの家庭訪問がありました。担当の方が自宅に来て面接と意思確認みたいなことをしたのですが、そこで母親が『この子は、教員になる気はありません』と応えた(信じられない!)(笑)」断ったものの、非常勤講師で1年間、



本学4年、オーケストラの定期演奏会

高木直喜選輯記念
高木直喜フルートリサイタル
2012/5/6 (日)
サコサトホール
14:00開演 13:30開場
入場料:全席自由 3,000円
主催:高木直喜音楽祭実行委員会
協賛:高木直喜音楽祭実行委員会
後援:高木直喜音楽祭実行委員会
高木直喜フルートリサイタル
J.S.バッハ:パルティータ 八短調 BWV997
ドビュッシー:シンククス
福島和夫:冥
武野晴久:フルート4本とピアノの為の委嘱作品
バルトーク:ハンガリー農民組曲
ピアノ:タゴの歴史

高木直喜選輯記念「高木直喜フルートリサイタル」より

J.S.バッハ:パルティータ 八短調 BWV997
ドビュッシー:シンククス
福島和夫:冥
武野晴久:フルート4本とピアノの為の委嘱作品
バルトーク:ハンガリー農民組曲
ピアノ:タゴの歴史



PALAU DE LA MÚSICA
127 CERTAMEN INTERNACIONAL DE BANDAS DE MÚSICA
Del 16 al 27 de julio 2013
33è FESTIVAL INTERNACIONAL DE MÚSICA PAU CASALS
 juliol i agost 2013

2013年7月16日～26日、フルートオーケストラで、スペインへ演奏旅行へ。歴史あるヴァレンシア国際吹奏楽コンクール委員会からの招待とバルセロナ近郊のリゾート地、ヴェンドレルで開催されたカザルス音楽祭への参加が目的。このときが指揮者としてのデビューとなる。
ヴェンドレルの[AUDITORIUM PAU CASALS]演奏会場 (下)



オープンキャンパスでの指導風景。楽器を始めるのに遅すぎることはないという。「卒業生で19歳からピアノを始めた学生がいます。今ではコンクールで入賞するレベルになっています。ピアノでそれができるのなら、フルートでも絶対にできるはず。希望を見失わないことが大切です」



ヴァレンシア国際吹奏楽コンクールの会場「PALAU DE LA MÚSICA」は非常に響きのいいホール。「演奏後、スタンディングオベーションが沸き起こり非常に感動しました。最高の思い出です」



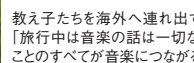
フルートオーケストラメンバーと記念撮影。「私の隣の方は、演奏会にわざわざ来てくださったバルセロナ日本領事館の首席領事さんです」



「スペイン演奏旅行中にドイツ留学中の卒業生二人が駆けつけてくれました」



スペイン演奏旅行中、ヴァレンシアの海岸で



教え子たちを海外へ連れ出す労を厭わない。先日も台湾へ。「旅行中は音楽の話は一切なし」とはいふものの、見聞きすることのすべてが音楽につながる

故永長次郎、播博、諸氏に師事。

25年間に亘りセントラル愛知交響楽団に在籍
リサイタルを8回、ジョイントリサイタルを4回開催、協奏曲等オーケストラの共演多数
1997年 9月 韓国馬山市で開催された現代音楽祭に招かれ演奏
2012年11月 ルクセンブルク、モンダルカンジェ市で行われた東日本大震災のチャリティコンサートで演奏し、共に好評を得る

日本フルート協会中部地区代議員、名古屋笛の会相談役顧問、全日本学生音楽コンクール審査員



高校で教えたことがあったという。「1クラス何十人と生徒を見ることには自分は向いていないと悟りました。教諭という場所には戻らない、フルートを一所懸命やるしかないなと覚悟しました。そうしてやってきて運良く現在に至っているというだけです」クラスの生徒を1年間、1人の落伍者も出さず、それを何十年も続けていく自信がなかったと述懐するが、教えることの責任を強く感じたのだろう。その思いは、今も変わっていない。

「僕が学生の頃は、授業やレッスンをたまにサボったこともありましたが、でも、今の学生は、皆、真面目ですよ」といいつつ、気になっていることを話した。「学生達にウィーン国立音楽大学の教授のレッスンを受けさせたんです。その後、その先生と食事しながら話したんですが、ある学生が無表情だということです。日本人は苦手ですよ。緊張していたんだと思いますが、ちゃんと表現して伝えることが大事ですよ。日本人の奥ゆかしさみたいなものは、なかなか外国人には通じない。言葉はできなくても表情や身振りででもい

いですから、何かきちんと伝えないと失礼に当たる。そして、それが演奏につながっていくことだと思います」自分自身がレッスンを受けていた頃を思い出し、有名な先生のレッスンを受けても緊張して1/10も頭に残っていなかったと笑わせる。でも、そうしたことを続けること、あきらめないことこそが肝心だ。「よくあるのが『自分は大きなことない』と思いついて、それは違うだろうといいたいです。人間なんてやればいくらでも伸びる。己の力を信じて努力を続ければ必ず結果は付いてくるものです。私自身、劣等感の塊でずっときました。プレイしたり教えてきたりする中でいろいろなものを吸収してきて、それを伝えてきました。結果的に教えた子たちの中から、国内外のコンクールでも優勝、入賞するような子が出てきたり、日本の著名なオーケストラの首席奏者に若干26歳でなった者、他大学の准教授もいます。それは自分がやり続けてきた結果がそういったことに結びついてきたと思います。自分の体験も含めて、あきらめないでやり続けられれば、必ず結果はついてくる。そういうことを信じて欲しい」大学で演奏を学ぶ

ことは、専門性の追求にほかならない。一つのことに関心しその道を究めることを目的とするが、一つを目指せば目指すほど、他の世界について知っていることや幅広い視野が必要になるものである。「私は留学経験はないが、優れた演奏家になるため海外に留学するのは、単に技術を学ぶだけではないと思っている」音楽が生まれた場所の風土を知り、食べ物を食べ、生活を肌で感じるために赴くのである。背景と文化を知ること、多くの先輩から教えを受けることが、自分の専門に普遍性をもたらす。演奏という専門性の追求は、案外、BORDERLESSという本学改革の考えと一番近いところにあるのかもしれない。

2015年からは、フルート専攻の学生と卒業生で編成されるフルート合奏団を率いる。「現役の学生と一番上は学生と自分の親と変わらぬ年齢の卒業生が一緒になって演奏会をやっています。こうしたことが非常にいいことだと思います」一つのことに関心しながら、同時に専門の幅を広げて広い視野を得ること。こうしたことが求められているのではないだろうか。

● 著 舟橋三十子
 (名古屋芸術大学芸術学部芸術学科教授)
 フォルマシオン・ミュージカル
 『名曲で学ぶ音大入試の楽典』
 ● 発行/音楽之友社



出 Book 版
 教員著作の出版物のご紹介です。
 (編集期限までに報告されたもの)

出 Book 版



春のオープンキャンパスが開催されました

2017年3月4日(土)、本学東キャンパスで春のオープンキャンパス(芸術学部芸術学科音楽領域・芸術教養領域及び、人間発達学部子ども発達学科)が開催されました。

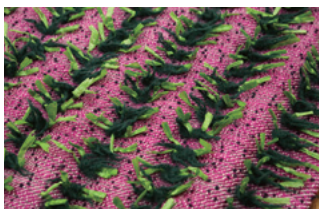
1号館1階に設置されたそれぞれの受付には、午前9時半過ぎから高校生やそのご家族など大勢が訪れ、アンケート用紙を記入したり、大学資料や本日のスケジュール・ランチ券などを受け取り、手続きを済ませました。玄関ホールには、ドリンク配布コーナーや芸術教養領域リベラルアーツコースのワークショップコーナーも設置され、賑わいを見せていました。参加者はそれぞれお目当ての会場に移り、午前10時からオープンキャンパスがスタートしました。

次のオープンキャンパスは6月10日(土)に全学部一斉に開催されます。

2017年度 オープンキャンパス日程

2017年	
6月10日(土) 10:00~16:00	東西キャンパス 全学部
7月16日(日) 10:00~16:00	美術領域 デザイン領域 芸術教養領域 人間発達学部
8月19日(土) 10:00~13:30	芸術教養領域 人間発達学部
9月30日(土) 10:00~16:00	東西キャンパス 全学部
10月29日(日) 10:00~16:00	東西キャンパス 全学部 ※芸大祭
12月23日(土) 10:00~16:00	芸術教養領域 ※予定
2018年	
3月3日(土) 10:00~16:00	東西キャンパス 全学部 ※開催検討中

表紙の写真



テキスタイルデザインコース
 加藤彩花「Red Pitaya」
 尾州産地で生産



「名古屋芸大
 グループ通信」
 ウェブサイト



アート&デザインセンター 2017年度展覧会スケジュール(予定)

3/31(金)~ 4/12(水)	2016年度デザイン学部レヴュー選抜展
4/21(金)~ 4/26(水)	私×□
5/12(金)~ 5/17(水)	アートクリエイターコース・コレクション展 Peace nine 2017
5/19(金)~ 5/24(水)	OB・OG展2017
5/26(金)~ 5/31(水)	写真部展
6/ 2(金)~ 6/ 7(水)	Arowth画集展【initium】
6/ 9(金)~ 6/14(水)	名古屋芸術大学教員展
6/16(金)~ 6/21(水)	instagroom(仮)3年洋画コース・夏 Be
6/23(金)~ 6/28(水)	ブレンツ展
6/30(金)~ 7/ 5(水)	大学院 コミュニケーションアート&デザイン演習発表展 2017年度前期留学生作品展
7/ 7(金)~ 7/12(水)	大学院洋画制作2017
7/14(金)~ 7/26(水)	素材展(メタル&ジュエリーコース、 テキスタイルデザインコース前期制作展)
7/28(金)~ 8/ 2(水)	AFTER DENMARK 2017展 清水・縣展
9/18(月祝)~10/1(日)	2017年度アート&デザインセンター企画展 「榊原澄人;記憶の羅針盤」展(仮称)
10/ 4(水)~10/11(水)	洋画1コース3・4年展 彫刻クラス展
10/13(金)~10/18(水)	洋画2コース4年5人展 書道アート展4
10/20(金)~10/25(水)	遭遇するドローイング;ハノーファー&名古屋2017
10/27(金)~11/ 8(水)	2017年度アート&デザインセンター企画展 グルーヴィジョンズ展(仮称)
11/10(金)~11/15(水)	「アー ーッ! ラジオ2017」 [大学院同時代表現研究展(仮称)]
11/17(金)~11/22(水)	幼稚園児たちのゲイジツ2017 Hand Hospeace 医療と美術 2017展
11/24(金)~11/29(水)	MCD Department2017
12/ 1(金)~12/ 6(水)	メディアデザインコース展
12/ 8(金)~12/13(水)	洋画コース2年生2コース 展覧会
12/15(金)~12/20(水)	こどもの空間 絵本と家具 2017年度後期留学生作品展
1/ 5(金)~ 1/10(水)	ガラス・陶芸コース2・3年生合同展覧会(仮)
1/12(金)~ 1/17(水)	日本画3年コース展
1/19(金)~ 1/24(水)	K-109展;版画研究室開設30周年展 Academic Melting Pot” ソンミティ”



※会期・内容に変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
 [入場無料] どなたでもご覧いただけます。
 お問い合わせ先 / (0568) 24-0325

Open/12:15~18:00 (最終日は17:00まで)
 日曜・祝祭日原則休館

発行: 名古屋芸術大学
 企画・編集: 全学広報誌編集委員会
 デザイン・協力: くまな工房一社
 印刷: 株式会社クックス
 発行日: 2017年4月28日

【お問い合わせ先】
 名古屋芸術大学 広報企画部
 〒481-8502
 愛知県北名古屋市鹿之庄古井281番地
 電話 0568-24-0359
 FAX 0568-24-0369
 E-mail: grouptu-shin@nuu.ac.jp



大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。